

がん悪液質が切除不能膵癌における治療シークエンス及び予後に与える影響

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

研究の目的と方法

がん悪液質とは、食欲不振や倦怠感、骨格筋の減少等を認める病態のことで、特に膵癌では高頻度に認められます。また、がん悪液質は化学療法の効果の減弱や副作用の増強、生存率にまで影響を及ぼすことが知られています。

本研究では、切除不能膵癌に対して1次治療としてゲムシタビン+アルブミン懸濁型パクリタキセル併用療法(GnP療法)を受けられた患者さんを対象に、治療開始時のがん悪液質の状態が、生存期間やその後の治療継続に及ぼす影響について検討します。

研究の対象となる方

2020年6月～2025年1月に当院において1次治療でGnP療法を開始された方

使用する試料・情報

年齢、性別、身長、体重、既往歴、膵癌ステージ、治療歴(薬物療法、手術)、パフォーマンスステータス、血液検査(Alb、CRP、血算、血液像、Cre、AST、ALT、T-bil、Na、K、Cl、TP、好中球分画、リンパ球分画)、投与量(ゲムシタビン、アルブミン懸濁型パクリタキセル、イリノテカン塩酸塩水和物リポソーム製剤、レボホリナート、5-FU)、UGT1A1遺伝子多型、治療開始日、最終投与日、死亡日、最終生存確認日

使用開始予定日：2026年9月8日

研究予定期間

2026年9月8日～2028年3月31日

個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。研究成果を学会等で発表予定ですが、個人が特定されないよう氏名等を削除した情報や集計結果を用いますので、プライバシーは守られます。

〔研究の情報管理責任者〕薬剤部 白尾祐樹

〔当院の個人情報管理責任者〕院長 中尾浩一

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用を停止すると共に、収集した情報等も可能な限り削除します。本研究への協力は患者さんの治療とは関係が無く、ご協力いただけない場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することができます。

問い合わせ先

済生会熊本病院 薬剤部 白尾祐樹

住所：熊本市南区近見5丁目3番1号 電話：096-351-8000(代表)